



Point

田植え作業のポイントを確認して、
米の収量・品質の向上を目指しましょう!



男鹿地区営農センター 加藤 勇輝

田植え作業

安定した収量を得るためには、植込み株数・本数が重要となります。栽植密度は**70株/坪**、植込み本数は**5~6本(400本/坪)**を目標として、田植え作業を行いましょ。

また、田植え日は**平均気温が14°C以上**で、晴天が続く日が好ましいです。最高気温が15°C以下で強風が吹く日は白枯れ症状が起こりやすくなるので、注意しましょ。



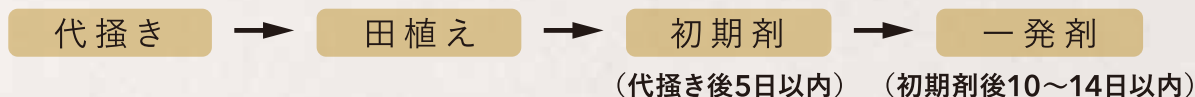
除草剤の効果的な使用方法

水田雑草の発生を抑制するためには、除草剤の効果を十分に発揮させることが大切です。また、雑草は代掻き後から発生し始めるため、散布適期内で散布できるよう、作業計画を立てましょ。

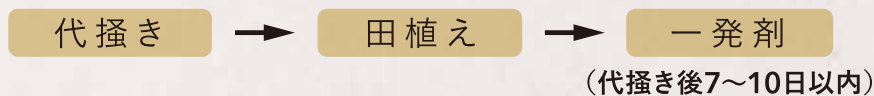
除草剤の効果を発揮させる要点

- ① 高低差を極力なくすように代掻きを行いましょ。
- ② 漏水しないように畦畔を点検してください。
- ③ 散布の遅れは取りこぼしの元になります。
- ④ 散布後4日間は止水させましょ(水深5~6cm)。

●初期剤＋一発剤体系処理 ※日数は目安です。



●一発剤のみ処理 ※日数は目安です。



茎数確保のための水管理

●田植え～分けつ期

浅水管理(3~5cm)で水温・地温を高め、分けつを促進させましょ。また、昼夜の温度差が分けつを促進させるため、日中は止水し早朝に補水を行ってください。

●ガス沸き・表層剥離

長期間、水を溜めたままにするとガスや表層剥離が発生し、茎数確保や除草剤の効果が劣ってしまします。ガス沸きが多い場合は1日程度落水し、ガスを抜き、根を保護しましょ。また、表層剥離が目立つ場合は強制落水をして、水を入れ替えましょ。

